

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 鮎の輸出国拡大促進対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部部里川振興課水産振興室 電話番号：058-272-1111（内 2912）

E-mail : c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円（前年度予算額： 0 千円）

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

オーストラリアへの商業用鮎輸出解禁交渉に必要な資料を収集するために、鮎のリスク疾病である細菌性腎臓病(BKD)等のサーベイランス体制を整備する。

※サーベイランス・・・監視伝染病の発生状況、病原体の検索、地理的分
布等の情報を収集、分析、評価すること。

(2) 事業内容

○サーベイランス実施体制の整備

リスク疾病の浸潤状況調査のためのサンプリング、検査方法等の確立
検査に必要な機器類、試薬等の整備

○サーベイランスの実施

県内におけるリスク疾病の浸潤状況の調査、分析

(3) 県負担・補助率の考え方

ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）において、県が主体的に輸出ルート開拓の実施を進めることとしている。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	945	検査等補助
旅費	243	業務旅費
需用費	6,732	検査検体、検査用具、試薬購入費等
委託料	1,600	検査機器点検委託、視察対応
役務費	480	翻訳業務
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）

第5章 政策の方向性

(3)ぎふ農畜水産物のブランド展開

①輸出拡大の強化

⑥鮎を守り育てる体制構築

(2) 国・他県の状況

先行事例 北海道のサケ輸出

(3) 後年度の財政負担

オーストラリアへの商業用鮎輸出の継続には、定期的なサーベイランスの実施が必要であり、リスク疾病の検査・分析等に係る費用が発生する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

妥当性：ぎふ農業・農村基本計画に基づき実施

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業
☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 令和3年度中に、リスク疾病に対するサーベイランス体制の確立、実施により、県内のリスク疾病の浸潤状況を把握する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

輸出先の求めるサーベイランスの実施、データ提出が事業の目的であるため、目標値を設定することはできない。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 豪州政府が求める病原体の保有状況調査・分析の実施
 - 対象疾病：細菌性腎臓病(BKD)等3疾病
 - 調査・分析内容
 サンプル：天然魚150個体×2箇所
 養殖魚150個体×2箇所
 調査回数：各2回/年
 - 結果
 全てのサンプルにおいて対象リスク疾病の陰性を確認

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - 2年間（R2, R3）の病原体の保有状況調査・分析結果に基づき豪州への商業用鮎輸出解禁交渉に必要な資料が得られる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	海外輸出を進めるためにリスク疾病の浸潤状況を把握することは不可欠である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>輸出先との二国間交渉によって求められるサーベイランスの内容が変更される可能性がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	